

臨床コミュニケーションの文化的多様性

池田光穂

臨床コミュニケーションはつねに文化を同じくする人たちの間、つまり同文化内において生起するだけでなく、さまざまな歴史的社会的諸条件のもとで、文化を異にする人どうしの間でも行われます。さらに同じ文化の中でも、専門家と非専門家や、コミュニケーションする間の人たちの年代や経験によって「文化的齟齬」がおこることも稀ではありません。ここでは「文化的齟齬」を手がかりにして、臨床コミュニケーションの文化的多様性について考えます。(この文中における専門用語はワークを行ったあとに中心に解説するつもりですが、質問がある場合にはリアルタイムで教師に聞いてもかまいません)。

A. ワークの課題

以下のオキモトさんは、アメリカ合衆国の病院に入院されている在米日本人の患者です。病院のチームは日本文化のことにそれほど明るくありません。

- (1) オキモトさんと医療チームの間には、どのような臨床コミュニケーションが交わされたのでしょうか？
- (2) 主治医とオキモトさんの間の臨床コミュニケーションに問題があるとすればどのような点ですか？
- (3) ここでの問題を教訓にして異文化間の臨床コミュニケーションにおいては、病院のチームは具体的にどのように考え、どのようにコミュニケーションをおこなうことが望ましいでしょうか？

「オキモトさんは 82 歳の日本人男性。転移性食道癌患者である。この 2、3 か月のうちに経口摂取が次第に困難になり、体重が大幅に減少し、げっそりと痩せてきた。十分な栄養補給をするために、オキモトさんに経管栄養法の導入が提案された。それを行えば栄養状態が改善するので、オキモトさんの生命予後も伸びるとみられている(月の単位と予測されている)。また、経管栄養法によって彼の QOL が低下することはあまりないとみられている。オキモトさんの長い闘病期間中、家族は彼の病床につきっきりだった。子供たちの多くが飛行機で移動し、仕事や家庭生活を犠牲にしてきた面もあり、経済的負担もさることながら、精神的な負担が深刻化してきている。オキモトさんは自分が家族の負担になっていると考えている。これは彼がまったく望んでいなかったことである。結局、オキモトさんは経管栄養法の導入を断ることにした。この決定に主治医はとても心配し、オキモトさんの家族が本人に圧力をかけて、本人にとって利益がある治療法を受けさせないようにしているのではないかと考えた。主治医は倫理コンサルテーションを求め、医療チーム全体に懸念を伝え、関係者全員で心配することとなった」(スウォータ 2009:129)

B. ワークの課題

以下のチェンさんは、アメリカ合衆国の病院に入院されている中国人の患者です。病院のチームは中国文化のことにそれほど明るくありません。

(5) チェンさんと医療チームの間には、どのような臨床コミュニケーションが交わされたのでしょうか？

(6) 看護師とチェンさんの間の臨床コミュニケーションに問題があるとすればどのような点ですか？

(7) ここでの問題を教訓にして異文化間の臨床コミュニケーションにおいては、病院のチームは具体的にどのように考え、どのようにコミュニケーションをおこなうことが望ましいのでしょうか？

「チェンさんは 84 歳の中国人女性。英語はほとんど話さない。転移性癌患者で予後は極めて厳しい。息子と同居しており、英語が必要な場合は常に息子が通訳してきた。医療チームによると、チェンさんは自分の疾患と予後を知っているという。彼女の主治医は、息子の通訳を介して、自分自身で彼女に疾患のことを伝えたと話している。しかし、ある日、病室で、看護師が癌の診断についてチェンさんに何か話したところ、チェンさんは強いショックを受け、深いうつ状態に落ち込んでしまった。あとで病室に来た息子はそのことを知って激怒した。看護師はチェンさんにショックを与えたことにおののいたが、同時に、看護師も他のスタッフも、チェンさんは診断と予後を知っていると思っていたのに、これはどうしたことかと不思議に思った。実は、息子はチェンさんに主治医の言葉を正確には伝えていなかったのである。予後が不良なことだけではなく、癌であることも伝えていなかったのだ。母親を庇護するのが自分の役目と認識する息子は、真実を伝えたら母親は落胆し、生きる希望をすべて喪失し、最期の期間の楽しみがすべて失われると考えたのである」(スウォタ 2009:131-132)。

《メモ》

文献：スウォタ、アリッサ・H、「臨床現場における文化的多様性」『病院倫理委員会と倫理コンサルテーション』D・ミカ・ヘスター編, Pp.121-147, 東京：勁草書房 (Hester, D. Micah ed., 2008. Ethics by Committee: a textbook on consultation, organization, and education for hospital ethics committees. Lanham, Md.: Rowman & Littlefield Publishers.).

■ キーワード集

文化 (culture)	
レンズ・眼鏡 (lens)	
文化的多様化 (アメリカ合衆国における～)	
文化的多元主義 (multiculturalism)	
コンテキスト・文脈 (context)	
文化的感受性 (cultural sensitivity) 文化的に感受的な (culturally sensitive)	
文化的一般化 (cultural generalization)	
文化的ステレオタイプ (cultural stereotype)	
認知地図 (cognitive map)	
治療師・ヒーラー (healer)	
自律性 (autonomy)	
自己決定 (self-determination)	
患者の自己決定法 (Patient Self-Determination Act, PSDA, 1990)	
事前指示 (advance directive)	
バイオエシックス (bioethics)	
医療人類学 (medical anthropology)	
真実告知 (truth telling)	
ターミナルケア・終末期ケア (terminal care)	
説明モデル (Explanatory models)	

■薬剤師に求められる「信頼関係の構築」におけるコミュニケーション能力とは？

GIO (General Instructional Objective) = 「学生が学修することによって得る [目標] 成果」= 「患者・生活者、他の職種との対話を通して相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける」(p.21)『薬学教育モデル・コアカリキュラム (平成 25 年度改訂版)』より

これにおける「コミュニケーション」には以下の 9 項目あげられている (pp.20-21)。右の欄に関連する能力のキーワードをあげておこう

1. 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる	コミュニケーション理論
2. 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる	コミュニケーション理論
3. 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例をあげて説明できる	文化人類学や心理人類学
4. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる	心理学、社会心理学、対人コミュニケーション論
5. 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する (態度)	臨床心理学、精神医学とその応用
6. 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる (態度)	心理学、ミクロ社会学とその応用
7. 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように 努める (技能・態度)	対人コミュニケーション学、臨床コミュニケーション
8. 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる (技能・態度)	対人コミュニケーション学、臨床コミュニケーション
9. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見い出すことができる (知識・技能・態度)	修辞学、実践的演劇論、弁論術、ディベート、ADR (裁判外紛争解決)、カウンセリング技法など

■復習用ウェブページ資料

臨床コミュニケーション

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/050531ccmu.html>

ディスコミュニケーション

<http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/user/rosaldo/050531discom.html>